

水戸の人物シリーズ 7

助さん・佐々介三郎の旅人生／目次

『水戸の人物』シリーズ刊行に当って 水戸史学会第二代会長 名越時正…………… 1

はじめに…………… 5

上編 「禅僧」修行時代

① 家系と生い立ち…………… 16

一 「良岑(良峯)氏」と「佐々氏」…………… 16

二 介三郎の誕生…………… 20

三 宇陀松山織田家と佐々直尚一族…………… 27

② 仏門(禅僧)修行…………… 30

一 臨濟宗妙心寺の禅僧…………… 30

二 明僧隠元の黄檗禅に参禅…………… 33

三 諸宗の教相修得と多武峰苦行…………… 36

③ 還俗から水戸への仕官…………… 40

一	還俗・立志	40
二	還俗・立志の実現	45
三	「立志論」の成立と江戸出府・改名	51
(1)	【諱の宗淳について】	54
(2)	【通称の介三郎について】	55
(3)	【字の子朴、号の十竹について】	56
四	水戸家(彰考館史臣)への仕官の様子	58
<h2 style="text-align: center;">下編 水戸藩「史臣」時代</h2>		
④	彰考館史臣の活動 I	64
一	修史事業の進展	64
二	『大日本史』紀伝の修撰業務について	66
三	佐々介三郎の史料採訪蒐集	69
(1)	出典註記と史料蒐集活動の意義	69

	(2)	延宝六年の京都・奈良方面探訪	72
	(3)	延宝八年・天和元年の関西探訪	74
		【河内・奈良方面探訪】	
		【高野山探訪Ⅱ高野山文書の調査】	
		【紀州熊野・那智探訪】	
		【吉野山探訪】	
		【二回目の関西派遣Ⅱ東大寺文書の調査】	
		【介三郎と故郷宇陀】	
	(4)	天和三年の須賀川相楽家探訪	88
	(5)	貞享二年の九州中国北陸探訪	91
		【小倉から鹿児島へ】	
		【鹿児島から宮崎・阿蘇・博多へ】	
		【博多から厳島・出雲へ】	
		【出雲から岡山、そして大坂へ】	
		【越前方面探訪を経て江戸への帰途】	
		【貞享二年探訪のまとめの一節】	
	5	彰考館史臣の活動	
		Ⅱ	
一		修史事業の総裁	108

	(1)	『参考太平記』の編修総裁……………	109
	(2)	『修史義例』の作成(元禄二年)……………	111
	(3)	『重修紀伝義例』の作成(元禄九年)……………	113
	二	光圀・藩主最後の帰国と隠居所「西山荘」……………	116
	三	久昌寺所蔵「一切経」経箱の箱書き……………	121
	四	「那須国造碑」修復と「車塚」発掘の工事監督……………	122
	五	湊川「楠公碑」建立の現場監督……………	128
	⑥	「安倍仲満論」に見る佐々介三郎の思想……………	142
	一	安倍仲満Ⅱ阿部仲麻呂という人物……………	142
	二	佐々介三郎の「安倍仲満論」……………	144
	⑦	晩年の佐々介三郎……………	150
	一	楠公碑建立完成後の介三郎の動向……………	150
	二	西山荘の老公光圀に近侍……………	152

三	佐々介三郎宗淳の最期	154
四	介三郎墓地の所在地異説(男木島説)	157
⑧	水戸史臣・佐々介三郎の家族	162
一	介三郎の妻女のこと	162
二	介三郎の養嗣子藤藏宗立	166
⑨	佐々介三郎の著作物	168
一	著書として伝承されているもの	168
二	後世集録の介三郎の著作文	170
三	史料の蒐集採訪の成果	171
	〔参考〕	
	「佐々介三郎宗淳」略年譜	173
	佐々介三郎宗淳 史料採訪旅程略図	176
	あとがき	177